



インタビューを担当した8人



スペシャルアドバイザーの小崎恭弘先生



自分たちの未来を自分たちで自由に描こう

インタビュー取材をはじめ、この本の制作に初めから深くかか
今回のプロジェクトを通じて感じたこと、

わったメンバーが、スペシャルアドバイザーの小崎恭弘先生とともに、
自分たちの将来について語り合った。

—今回は、さまざまな大人にインタビューをして、皆さん自身の10年後、20年後かもしれない、いろいろな人生を見てきてもらいました。

石田 僕は、会社を辞めてそば職人になった番場亮さん取材して、「やりたいことが変わってもいい」ということが、とても印象に残りました。

増井 石田さんのコメントが、誰かへのメッセージみたい(笑)

石田 今の若い世代は、早くから、将来何をやりたいかと聞かれ続けて、それがプレッシャーにもなっていると思う。僕自身、もともと理系志望だったのを、浪人中に家庭科の先生になりたいと進路を変更したし、番場さんの話を聞いて、「迷ってもいいんだ」とあらためて気づかされました。この本を読む人たちに、それをぜひ伝えたくて(笑)

小崎先生 私自身も何度も転職してきたしね。40歳になる少し前に特に大きな転機があって、周囲の同じ年頃の人に相談したら、意外に多くの方が同じように転職を考えたり、将来に悩んでいた。「働き始

めてからやりたいことが変わった、見つかった」という人は、増えている。40歳で不惑(ふわく)どころか、いくつになっても迷うし、仕事についての考え方は、昔と変わってきていると思う。

増井 取材した渡部桂さんは、仕事でも海外で活躍されている一方、休日は旅行したり友達と遊んだり。その両方が自然にできている感じでした。

壺井 看護師の中野智子さんは、職場が時短勤務など子育て中の人にも理解があり、職場環境に、とても恵まれていると思いました。就職のときは、仕事の中身ももちろん大切ですが、同時に、職場をどう選ぶかも大事なポイントだと思いました。

小崎先生 「職場環境に恵まれる」という言葉をよく聞くけれど、それは、その人自身の人柄や働き方が周囲に影響を与えている部分もあると思うよ。働きやすいかどうか、その責任の半分は自分自身にもあるんじゃないかな。どうすれば働きやすい環境が生まれ出せるのか。皆がこれから成長する中で学び取ってほしいと思う。

生き方もカップルのあり方も自分が納得すればいい

—パートナー選びについては？

壺井 私は共働き希望なので、できれば家事は五分五分で分担したいと思っています。でも、実際に共働きの中野さん夫妻を取材すると、智子さんの仕事不規則なので、送り迎えは智子さんの役割になっているなど、意外に大変そうだな...と思いました。やっぱり女性が大変になりがちなのかしら。

小崎先生 2人が納得していたら、分担の割合は5:5でも1:9でもいいと思うよ。お互いに足りないところや苦手なところを補い合うことが大事。

松浦 うちの両親はうまく分担していて、弁当などは、父が作ってくれます。

山本 木村司さんは男性で育児休業も取って、子どものことともとてもかわいがっている感じでした。

松浦 奥さんの妊娠中も、ウォーキングに付き添ったり、すごくいいお父さんでしたよね。

石田 昔は、男性と女性の役割が完全に分かれて

いて、だから分かりやすい面もあったと思うんです。今は、男女ともに仕事も家事も同じように頑張りたいと言われてきているような気がして、ハードルが上がっている気がする。

増井 アンケート結果を見て感じたのは、パートナーに求めるものは今も昔も変わらないということ。親世代の影響も強く受けていると感じました。

小崎先生 高校生や大学生は、まだそれしか知らないからね。皆は、必ずしも両親が、自分の生き方のモデルにならなくなった世代かもしれない。モデルがない中で、自分の生き方を考えていかなければならない大変な時代です。でも正解は1つじゃない。周囲とかかわる中で影響があったり、途中で変わってもいい。ぜひ自分のよりよい生き方を見つけてほしいと思います。

夢が途中で変わってもいい

正解は1つじゃない

